

(1)児童の体力の現状

- 握力は、男子は全学年、女子は2年と6年以外の学年で県平均を上回っている。
- 長座体前屈は、男子は2年と4年以外、女子は4年と6年以外の学年で県平均及び市平均を上回っている。
- 1年生は男子が8種目中6種目、女子が8種目中5種目で市平均を上回っている。
- シャトルランとソフトボール投げは全ての学年で県平均を下回っており、投力と全身持久力に課題がある。
- 立ち幅跳びは5年生男女以外の全ての学年で県平均を下回っており、筋パワー(筋力×スピード)に課題がある。

(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

- 具体目標であった「体力テストにおいて、全学年で男女とも8種目のうち半分以上が県平均を上回ること」は達成できなかったが、5年生は男女とも半分の4種目が県平均を上回った。また、体力テストの結果を県平均を上回る種目数でみると、上回る種目が昨年度より減ったのは、4年女子(昨年度3年)のみで、同数だったのが4年男子、2・3・5・6年(昨年度1・2・4・5年)は男女とも県平均を上回る種目が増えた。この結果から、徐々にではあるが体力が向上してきていると思われる。
- 毎年12月に行う校内アンケートでは、「休憩時間は、校庭や体育館で遊びましたか。」という項目で、肯定的回答をした児童が今年度は86%であった。H27年度は79%、H28年度は82%、H29年度とH30年度は84%であったことから、年々体を動かす児童は増えてきているといえる。
- 投力の向上を目指し、児童の実態に応じて、各学年で工夫をしながら指導をしてきた。しかし、他の単元との兼ね合いもあり、練習時間が多くはとれなかったため、目に見えて投力が向上したとはいえなかった。
- 楽しさを感じながら体力向上を目指すことに大きく役立っていた校庭の遊具が、老朽化のため撤去された。今年度撤去された遊具は、本校の遊具の中でも一番多くの児童が遊んでいた遊具であったため、この遊具がなくなったことで、体を動かして遊ぶ児童の減少が懸念される。

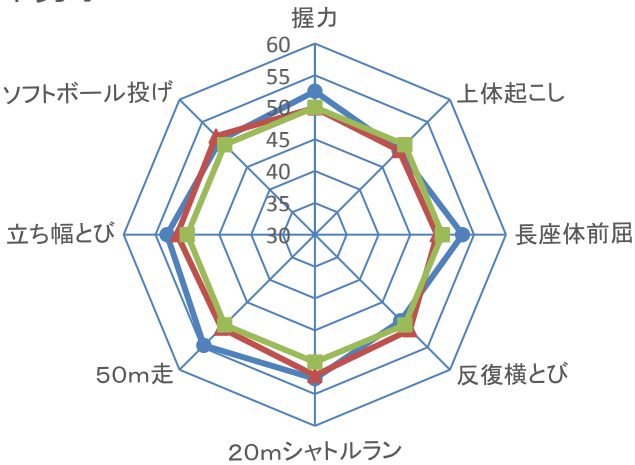
(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・体幹を鍛える体操や縄跳びなど、全校で取り組んできた活動は来年度も継続する。
 - ・全教職員に本校児童の体力の現状や課題を知らせ、体育を中心に各学年の児童の実態に応じた指導を行い、全児童の体力向上を目指す。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・メディア学習で児童が学校で学んだ内容を保護者に知らせ、普段の生活習慣が体の成長や体力向上に大きく関係することを伝えていく。
 - ・地域の活動と連携し、運動に親しむ取組を推進していく。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・養護教諭と連携し、保健だよりや身体測定の時間を活用し、生活習慣を確立することの大切さを伝えていく。
 - ・食の学習ノートの活用や、外部講師を招いての学習等を通し、食育の大切さを伝えていく。

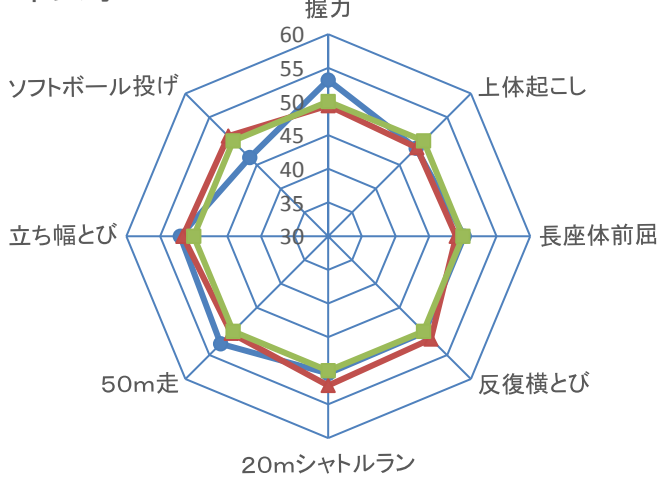
調査実施者数(人) 1年(男子26・女子27) 2年(男子22・女子22) 3年(男子21・女子18)
4年(男子17・女子19) 5年(男子21・女子12) 6年(男子32・女子23)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

5年男子 ●持田小 ●島根県 ●全国



5年女子 ●持田小 ●島根県 ●全国



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

